

優秀賞

— 福島県知事賞 —

身近なことから始める大切さ

福島県立ふたば未来学園中学校1年 ^{ハヤカワ}早川 ^{マサキ}征輝

あの震災の直前。生まれたばかりの弟は、母に連れられて、病院から自宅に帰ってきた。久しぶりに、家族四人がそろうのを楽しみにしていた。お祝いをするどころか、いつも通りの一日ですらなくなった。

当時、父の仕事の都合で、福島県から離れた土地で暮らしていた。住んでいたマンションは、大きな円を描くように揺れた。まだ二歳だったが、かなり慌てた母の様子を覚えている。

震災が起きた翌日から、父は、毎日帰宅するのが遅くなった。いわき市と東京都をつなぐ役割を担う仕事をしていたからだ。生まれた弟の顔をゆっくりと眺めることもなく、東京都での三年間の任期を終えたそうだ。

いわき市に転居した頃、

「海には入らない方がいいよ。」

と言われた。「きれいな砂浜なのに、なぜだろう」と、疑問を抱いたことを、鮮明に覚えている。両親は、放射線の影響が心配だったのであろう。

十年間、わが家では、震災から何年経過したかを、いつも弟の年齢に、置き換えて考えている。今では、いわき市の海で、釣りを家族で楽しんでいる。鰯や鯖などが釣れて、刺身にすると、とても美味しい。

今なお、福島県産の海産物や農作物は、危ないから買わないと考えている人がいる。福島県に対する偏見が続いている。放射線量が、基準値以下であるにも関わらず、「ふくしま」という言葉だけで、避けられてしまうことは、非常に残念である。

東京オリンピックでは、バウハ会長が

「福島の桃が美味しい」

と、発言していた。福島県産の食べ物は、美味しく、安全であることを広めてもらえて、嬉しかった。このような出来事を増やすことはできないだろうか。

まずは、福島県に住む人が、もっと県産の物を知り、食べることである。自分の住む土地のよさを知り、誇りをもっていかなければ、他者の心が動くはずがない。

自分が通う中学校がある広野町では、新たな特産物として、ミカンやバナナを栽培している。「綺麗」と名付けられたバナナは、名前の通り見た目も美しく、生産者の地元に対する想いが込められている。寒い地方で、これらを商品化する事に価値がある。可能性を信じ、実現できたことに大きな力を感じる。さらに、丹精込めて育てられた食べ物は、高い信頼をもてる。

また、実感を伴った経験を、丁寧にそして多くの人にも伝えていることが大切だ。福島産の物を、風評被害の払拭のためでなく、本当に欲しいと思ってくれるかもしれない。

自分ができることは、わずかかもしれない。でも、一人でも多くの人が、志を同じにして、協力し合えば、未来は変わっていくと思う。